

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部

妙高なえな小屋建設報告書

昭和44年8月

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部

山小屋建設委員会

は じ め に

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部創設10周年記念事業の一環として、現役・OBが力を合わせて山小屋建設運動を進めて参りましてから、4年目にしてやっと念願の山小屋が完成致しました。今山小屋は私達の活動の根拠地として、現役・OBが心をつなぐ場所として、またワンダーフォーゲル活動発展の源としてその歩みを始めたのであります。

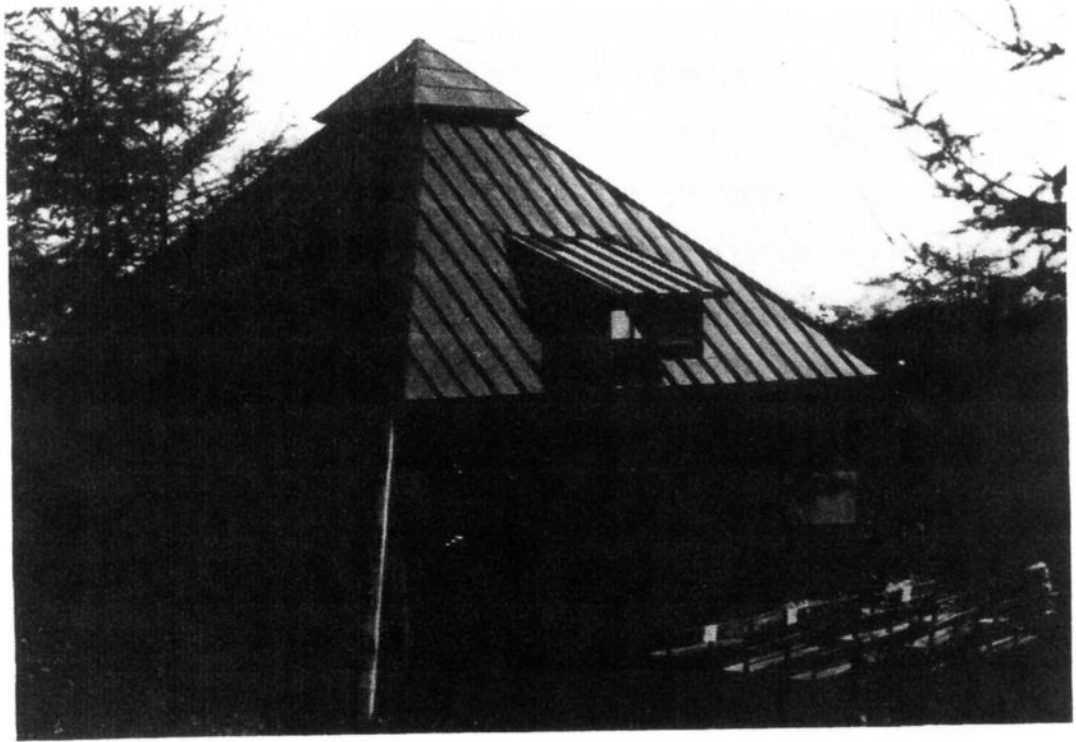
妙高々原は美しい自然環境に恵まれて、付近にはワンダリングコースやスキー場が豊富にありまして、山小屋を訪れる人々は四季折々に野山の草木が織りなす緑、紅葉、白銀の世界に浸りながら、山菜、きのこ、木の実の素ぼくな味に舌鼓を打ち、野鳥、虫の声に耳を傾けるならば、都会のスモッグに汚れた身も心もすっかり洗い清められるであります。

このようなすばらしい山小屋が、現役・OBの協力で完成出来ましたことは、私達の誇りに思う処でありますと同時に、山小屋建設に厚いご支援をいただきました岡田悟氏ならびに和信建設殿をはじめ、関係者各位に対し心から感謝の意を表します。

昭和44年5月

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部

山小屋建設委員会委員長 郡 司 直 樹



妙高なえな小屋 (Y. W. V)

経 過 報 告

昭和39年

- 夏 頃 部創設10周年記念として山小屋建設の話が始まる。(参照 SKY LINE Vol. 16 No. 2 久野著)
- 11月18日 山小屋建設前準備会第1回会合。
- 11月25日 第2回会合, 他大学山小屋の問い合わせ, 候補地への問い合わせを行なう。
- 11月28日 OB・現役第1回合同会議。

昭和40年

- 3月19日 第2回合同会議, 問い合わせを集約し第1回経過報告書を作成する。(資料1参照)
- 3月28日 第1回現役・OB合同総々会開催。山小屋建設準備委員会が正式に発足。OB総会で山小屋建設決定する。
- 4月18日 現役総会で山小屋建設決定する。現役部員に山小屋建設条件のアンケートを出す。(資料2参照)
現役は組織的資金積み立てを開始する(月100円)。
- 4月30日 第1回山小屋建設準備委員会, チーフとして嘉納, 林を選出。
- 5月3~5日 第1次現地偵察開始(水上, 谷川, 上野原, 塩沢, 湯沢, 六日町, 湯之谷, 土樽方面)。
- 5月19日 第2回委員会。
- 6月 現地偵察(那須, 奥鬼怒, 日光, 尾瀬方面)。
- 7月 菅平, 保科現地偵察。
- 8月 妙高, 戸隠, 北八ヶ岳現地偵察。
- 9月22日 第5回委員会, 第1次調査活動終了。第1級候補地として銀山平, 笹ガ峰を選定。(資料3参照)
- 10月12~17日 第2次現地偵察開始—銀山平, 笹ガ峰—。(資料4参照)
- 10月24日 山小屋建設準備委員会最終報告書を現役総会に提出。
山小屋建設準備委員会解散する。
山小屋建設委員会発足する。

- 11月3日 OB総会で山小屋建設準備委員会を解散し, 山小屋建設委員会が発足。

昭和41年

- 6月8日 建設委員会, 最終調査のための調査項目の検討を行なう。
- 8月 銀山平最終調査を行なう。
- 10月 笹ガ峰最終調査を行なう。
- 10月26日 建設委員会は最終調査報告書を作成し, その結果笹ガ峰を建設予定地にする。(資料5参照)
- 11月13日 第2回現役・OB総々会において山小屋建設答申案が委員会の原案通り採択された。(資料6参照)

昭和42年

- 1月 笹ガ峰冬期偵察を行なう(笹ガ峰の冬期気象条件の調査)。
- 1月16日 建設委員会, 冬期偵察報告を行なう。(資料7参照)
- 8月 笹ガ峰夏期偵察。(資料8参照)
- 12月24日 妙高々原町杉野沢, 岡田悟氏と土地賃貸借用契約を締結する。(資料9参照)

昭和43年

- 4月23日 建設委員会, 久野担当の山小屋建築設計図面を検討する。(資料10参照)
- 4月 OB側山小屋建設趣意書を会員に発送し, 募金運動を開始する。
- 5月2~5日 山小屋建設工事費用見積りの件で和信建設と折衝を開始する。
- 7月 和信建設より概算見積書が提出され建設委員会で検討, 更に折衝を重ねる。
- 8月13日 一部設計変更の上, 詳細見積書が提示された。
- 8月18日 山小屋建設工事請負契約を和信建設との間に締結する。(資料11参照)
- 8月20日 建設地の整地を開始する。
- 8月下旬 基礎工事完了する。
- 9月22日 上棟式行なわれる(郡司, 久野出)

席)。
 10月13~20日 現役・OB合同で建設工事状況を視察する。
 10月27日 落成式を行なう(来賓遠間町長, 岡田悟氏, 和信建設, 竹田之保氏。部長田中教授, 現役 35 名, OB 20 名出席)。横浜国立大学ワンダーフォー

ーゲル部「妙高なえな小屋」と命名。

11月17日 久野現地に行き和信建設との間に山小屋の検収引渡し行なわれる。

12月13日 山小屋建設委員会その任務を完遂し解散する。

資 料

1. 第1回経過報告抜萃

その1 他大学ワンダーフォーゲル部の山小屋調査結果

大学名 調査項目	関 東 学 院 大	中 央 大	都 立 大	法 政 大	明 治 大
所在地	元 橋 (群馬)	旧鹿沢 (群馬)	旧鹿沢 (群馬)	後立山 (長野)	奥鬼怒 (栃木)
計画開始時	昭36年7月		昭37年3月		
完成時期	昭38年12月	昭31年	昭38年11月		昭38年10月
建設費	100万円		60万円		400万円
管理機関		部 員	山小屋管理委員会		
管理方法		現地管理者	現地管理者	現地管理者	現地管理者
建設工事への参加	建設隊編成, 整地, 資材荷上, 基礎工事の手伝い		部員が資材荷上		合宿で資材荷上
費用調達	OB寄付, 映画会 父兄より借入 合同アルバイト		OB寄付借入 スキーバス 映画会	OB・学校の寄付	
建 坪	36 m ²		15 坪		35.5 坪
収容人数	45 名		20 名		80 名
設 備	2階建, ドラム缶 改良ストーブ		電気引込 石油ストーブ		2階建 テラス付
敷 地			300 坪		700 坪
利用状況	スキー, ワンダリング 根拠地, OBとの交流集会	スキー	OBとの交流 OBの集会 スキー・合ワン 公開ワンダリング		
そ の 他				利用対象は学校関係のみ	草津にも山小屋あり

その2 手紙による候補地問合せ調査結果

場所	調査項目	既存山小屋	山小屋に改造出来るような建物	土地入手	付近のスキー場	積雪量期	交通	その他
新潟県南魚沼郡塩沢町		東大ワングルの小屋	なし	可能	石打を始めとし8つのスキー場	3m 11~5月	上野4:00塩沢バス1:00清水	将来が有望視されている
栃木県塩谷郡栗山村		あり	なし	可能 国有林	正式なものなし 将来見込あり	2m 11~4月	川保温泉より 徒歩約12Km	奥鬼怒地帯を対象として問合せた
栃木県那須郡那須町		峰の茶屋・三斗小屋の中間に避難小屋1棟	なし	国立公園のため難しい 但し借用可能	正式なものなし し、但しあらゆる所スキー可能	2m 12~4月	上野3:00黒磯バス約1:00	山小屋に適している処では清水ヶ平が最適
群馬県吾妻郡草津町		明治大ワングルの小屋のみ	なし	入手可否不明	草津温泉スキー場	1m 1~2月	上野3:00長野原バス0:40 草津	
日光		大学関係なし 避難小屋		国立公園	湯元スキー場 刈込湖、切込湖付近可能	1~2m 12~4月	上野3:00日光日光バス1:00 湯元	風光明媚、温泉、スケート
尾瀬		多数		国立公園	スキー場なし 至仏山付近で可能	2~3m 12~4月	上野一沼田沼田よりバス 4時間	風光明媚、スキー場として開ける可能性
北八ヶ岳		多数		国有地	スキー場なし 麦草峠付近可能	1~2m 1~3月	4~5時間	
鹿沢		都立大ワングル、中央大ワングル		国立公園	新旧鹿沢リフトあり、どこでも可能	1~4月	4時間 国鉄長野原よりバス	温泉
奥利根		多数	飯場あり	国立公園	天神平上野原	12~4月	4時間 ロープウェイ 水上よりバス	温泉

2. アンケート結果（山小屋建設準備委員会最終報告より）

◎ 建設候補地としての基準

1. スキーのできる所。
2. 東京から6~7時間以内でいける所。
3. ワンダリングに適した山が周囲に豊富であること。
4. OB関西支部に連絡のよい所。

その他、附近に温泉のある所、景色のよい所、当然のこととして水利、燃料のある所。

◎ 小屋建設について

建設時期；41年、42年中（少数意見として時期を待つべきだという意見）。

利用対象；原則として横浜国大ワンダーフォーゲル部 現役部員およびOB。

建設費；100万円程度。

収容人員；30~50名前後。

設備；普通の部屋の他に乾燥室、ストーブ、ふろ場、トイレ等。

管理方法；現地の人に委託。

自己負担金；現役月100円。OBは1口5,000円または10,000円。

建設方法；大多数は現役部員の歩荷を認めているが、夏合宿自体を建設合宿とすることには意見がわかれて、夏合宿の他に建設合宿を設けるという意見もでた。

3. 第1次調査報告

第1次調査にあたってはワンダリング、スキー、交通の便などを判断基準として広範囲にわたって現地調査をおこなった。これを集約して次に示した。

×	那須	表那須は別荘地で㊶高い。裏那須は㊴不便、㊷が少ない。
×	奥日光	観光開発が進み俗化して㊶高い。
×	奥鬼怒	積雪期は㊴がない。適当な㊳がない。
×	尾瀬	尾瀬一帯は現在東電の所有で㊶入手困難。
◎	银山平	㊶、㊷、㊳の条件がすぐれている。但し積雪期の㊴に問題点がある。

○	六日町	㊦, ㊧に恵まれている。㊨はやや高い。
×	塩沢	㊦, ㊧はよい。㊨が高い。
○	旭原(湯沢)	地元は㊨に好意的だが、開拓地ゆえ入手方法に問題がある。㊧はよい。
○	土樽	旧飯場小屋が交渉しだいで入手可能。㊧に難点あり。
×	谷川温泉	㊨は杉林で、伐採に立木補償の問題があり高い。
×	大穴	㊨高い。地形的にも山小屋に適地がない。
×	綱子(水上)	バス停から山道10分で㊨悪い。㊧も未開発。
×	青木沢(水上)	藤原湖畔から青木沢を4km遡った処。積雪期の㊨が問題。
○	山口(上野原)	上野原は大資本の土地買占めで不可。山口に入手可能の㊨と空家がある。
×	芦田町 (北八ヶ岳)	既に分譲地で㊨高い。
×	鹿沢	観光地として開けすぎ㊨高い。
○	菅平	入手可能の小屋がある。㊦にやや難点がある。
×	角間	山小屋に適する㊨がない。
×	志賀高原	観光地で㊨高い。
×	保科, 五色	積雪量が少く, ㊧, ㊦に難点がある。㊨高い。
×	戸隠	観光地化進み㊨高い。
◎	笹ガ峰(妙高)	地元の支援が積極的。関西方面からも㊨に恵まれている。㊧に恵まれている。
×	木曾	関東方面から㊨が遠すぎる。

注 1. ◎=第1級候補地 ○=第2級候補地 ×=不適格地
注 2. ㊨=(建設用)土地 ㊨=交通の便 ㊦=ワンダリングコース ㊧=スキー場

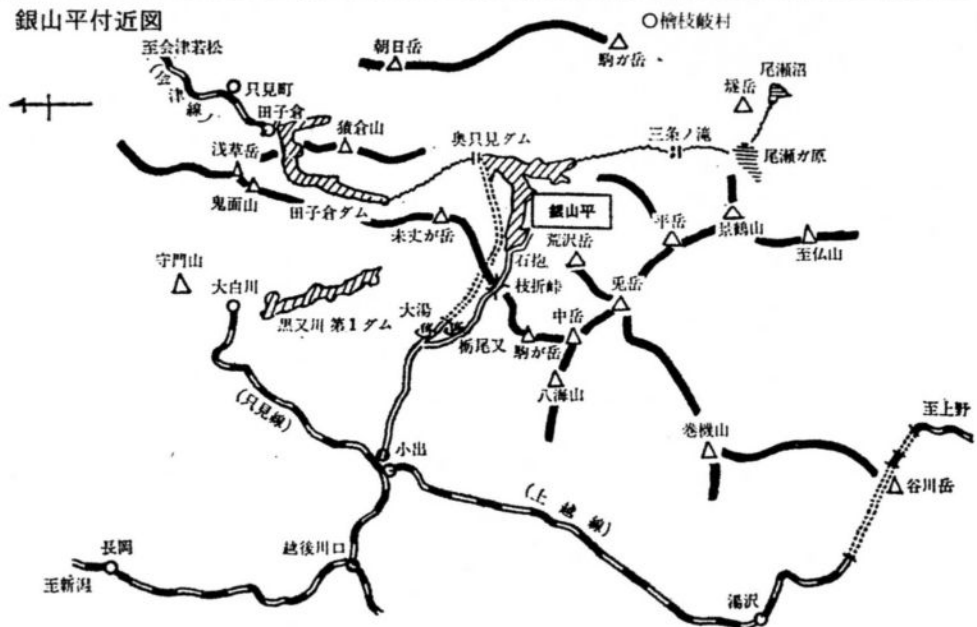
4. 第2次現地調査結果

候補地	銀 山 平	笹 ガ 峰
調査項目		
場 所	新潟県北魚沼郡湯之谷村蛇子沢	新潟県中頸城郡妙高々原町杉野沢
交 通	上野 <u>急</u> 3:50 / 6:30 小出 <u>バス</u> 1:50 银山平(冬期白光岩迄, 银山平迄, は徒歩30~60分, 積雪量による。)	上野 <u>急</u> 5:00 / 8:30 田口 <u>バス</u> 1:00 池の峰(冬期国際ロッジ迄, 池の峰迄はリフト利用しスキーで行く。)
標 高	780 m	1,380 m
土地所有者	個人, 農林省, 部落共有地等	旧杉野沢村財産管理組合および農林省
附近の地価	300円/坪 以下	早大山WV屋の場合, 借地料年間 5円/坪(41年度より値上の子定), 買入は不可
附近の部落	学習院山小屋附近は, 季節開拓部落7戸が石抱橋から银山平にわたり点在, 小屋, 旅館4軒	杉野沢部落へ約8km, 武庫川女子大山岳部小屋, 早大WV小屋へは10~20分位, 笹ガ峰の国民休暇村, 京大京山荘へは30分位
施 設	沢水使用可, 薪は国有林から安く購入可, 電気, 電話なし	水は井戸を掘る, 電気, 電話なし, 薪は周囲の山から自由
ス キ ー 場	学習院山小屋の南側斜面はスキー可能, 附近では大湯スキー場, 奥只見スキー場	妙高国際スキー場 笹ガ峰は一面にスキー可能
積 雪 量	3m~7m	3m位 乾粉雪
温 泉	大 湯	関, 赤倉, 燕, 妙高, 池の平

ワンダリングコース	魚沼三山, 尾瀬, 荒沢岳, 未丈岳, 平岳など	妙高連山, 戸隠連山, 足をのぼせば北アルプス
連絡先	開拓地々区一湯之谷村企業観光課 星秀雄氏 組合地々区一組合長 上重政太郎氏	杉野沢支所長 竹田幸雄氏
将来計画	42年度に銀山平一裏麓岳一沼山峠一金精峠一日光の道路完成予定 県境コースの開発	今後別荘が多く立つことが考えられる
10月の状況	紅葉狩り, キノコ狩り, 銀山湖にボートあり	アケビ, 山ブドウ, キノコ, クリ, 全山紅葉, すぐ下仙人池

- 問題点
- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 豪雪地域で1月中旬～2月は風雪が最も厳しい。 2. 電源開発用トンネル道は工事専用で現在は定期バスなし。 3. 共有地は所有者との話次第で購入は容易。 4. 畑は個人所有で農地転用は比較的容易。 5. 荒農地は農林省所属で手続に手間がかかる。 6. トンネル道は11月に一般公開の結論が出そうだが、将来バスも通ることになろう。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 財産管理組合は好意的で、仙人池附近に大学の山小屋を希望しているが、観光開発を委嘱されている泰成観光の態度を未だ打診していない。 2. 偵察したのは乾期で附近の沢は涸れていた。井戸を掘る必要がある。 3. 東京からの交通の時間が急行を使用しても5時間要する。 |
|---|---|

付近略図



笹ガ峰付近図



5. 最終調査報告

銀 山 平	笹 ガ 峰
<p>ワンダリングコースに恵まれ静かな環境を有し、山小屋として絶好の場所であるが、ナダレのため冬期の交通として電源開発用のトンネルしか利用の可能性がなく、また電源開発用のトンネルを使用した場合でも、トンネルを出てから小屋までの間4mを越す積雪のため小屋へ行くのが困難である。結局銀山平に建設した場合冬期使用はほとんど出来ないわけである。</p>	<p>冬期交通にもそれほど問題がなく、スキー場にも恵まれ、観光開発の点も通過交通地であるためそれほど俗化懸念はない。</p> <p>ただ水場の点、強い西風等の面で最初予定していた池の峰付近では問題があるが、この点更に候補地を調査すれば適当な場所を見付けることができるであろう。</p>

6. 山小屋建設答申案

I 場所；妙高々原笹ガ峰

II 建設時期と計画

昭41.12 冬期偵察（積雪量を調査の上、土地の目安をたてる。）

昭42. 6 水場調査の上、土地賃貸契約
夏 現地整地

昭43. 3 建設業者と建設工事請負契約
夏 建設

9 落成

III 資 金 総額110万円（現役50万円、
O B60万円）

IV 土 地 新潟県中頸城郡妙高々原町旧杉野沢財産組合所有地を借り受ける。

V 借地代 200坪（年 1,000円、周囲800坪専用私有許可）

VI 使用細則 本日は提出せず

7. 笹ガ峰冬期偵察報告

最初の候補地である池の峰バス停付近は、積雪、西風の点で不適當であり、可能性としては池の峰頂上付近か、池の峰東側（三本木方面）か、仙人池のほとりの三者のいずれかである。

竹田幸雄氏（杉野沢支所長）への通信による調査により、上記三者の土地の最初の所は不適當であり、後二者については可能性ありとのことである。

8. 笹ガ峰夏期偵察報告

五八木（バス停）と三本木（バス停）の間地点で、バス道から約50m離れた処に、杉野沢部

落 岡田悟氏所有の造林小屋があり、この脇に古井戸を発見し、飲料水問題の見通しがついた。

9. 土地賃貸契約

岡田悟氏と土地賃貸契約を締結、その内容は200坪を年額20円/坪の借地料で借用した。また付近の1,000坪も幕営等の目的ならば、無料で使用可能となった。

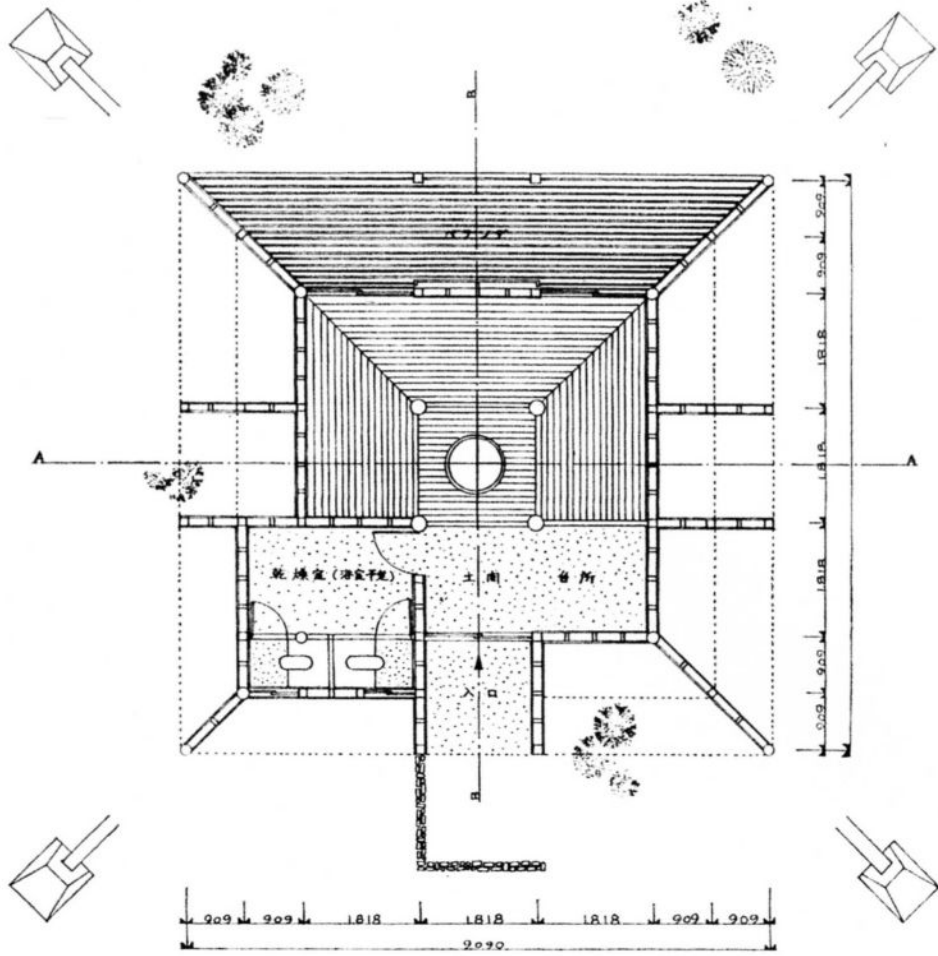
10. 設 計 図 面（7頁，8頁）

11. 建設工事費明細

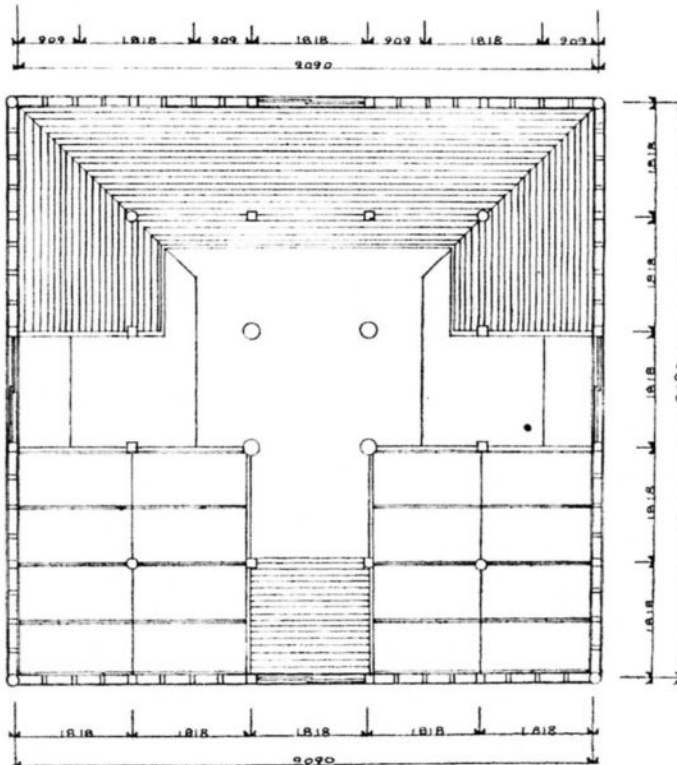
工 事 費 ￥ 1,450,000

1. 仮設工事	1 式	￥ 40,000
2. 基礎工事	〃	144,450
3. 木工事	〃	511,200
4. 屋根工事	〃	154,800
5. 金物工事	〃	12,000
6. 建具工事	〃	56,200
7. 左官工事	〃	6,300
8. 塗装工事	〃	23,550
9. 手間工事	〃	400,000
10. 雑工事	〃	8,000
11. 諸経費	〃	93,500
合 計		1,450,000

設計圖面

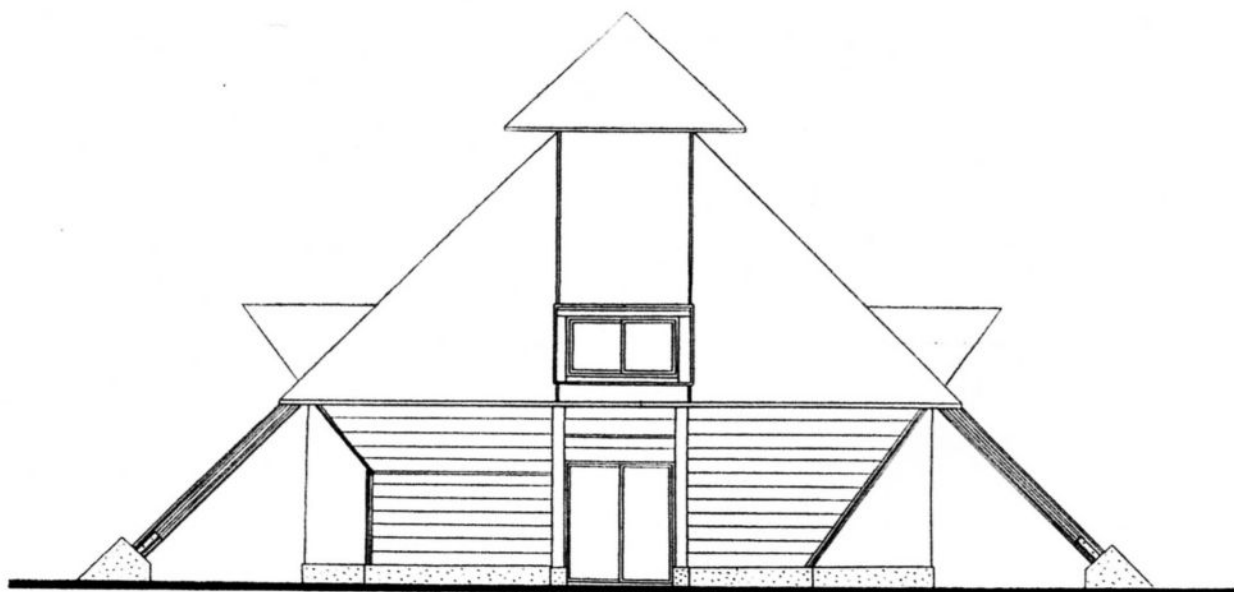


1階平面図



2階平面図

立 面 図



入 口 側



ベ ラ ン ダ 側

会 計 報 告

(昭和44年5月31日現在)

収 入 の 部		支 出 の 部	
現 役 積 立 金	358,410	山 小 屋 建 設 費	1,450,000
○ B 寄 付 金	808,000	調 査 偵 察 活 動 費	80,750
部 長 田 中 教 授 寄 付 金	20,000	山 小 屋 建 設 趣 意 書 作 成 費	18,000
前 部 長 柴 田 教 授 寄 付 金	20,000	通 信 費	5,490
○ B 借 入 金	520,000	雨 戸 製 作 取 付 代	14,000
富 丘 会 々 員 寄 付 金	80,000	山 小 屋 整 備 費	35,830
大 学 祭 模 擬 店 収 益	68,550	記 念 品 代	8,400
ダ ン ス パ ー テ ィ ー 収 益	131,669	雑 費	10,300
5 期 ○ B 卒 業 記 念 基 金	10,000	昭 43・44 年 度 借 地 代 立 替	8,000
雑 収 入	26,204	借 入 金 返 済	422,478
銀 行 利 息	10,415	未 返 済 金	97,522
未 収 入 金	97,522	建 設 委 員 会 報 告 書 作 成 費	
合 計	2,150,770	合 計	2,150,770

印	刷	昭 和 44 年 8 月 日			
発	行	昭 和 44 年 9 月 1 日			
編	集	桜 井 謙 一			
写	真	井 上 肇			
発 行 人		郡 司 直 樹			
発 行 所		横 浜 国 立 大 学 ワ ン ダ ー フ ォ ー ゲ ル 部			
		山 小 屋 建 設 委 員 会			
印 刷 所		誠 文 堂 印 刷 工 業 株 式 会 社			